

# 日高高等学校 定時制課程

実施日時	令和4年7月19日(火)、9月5日(月)、11月16日(水)
参加者	生徒19名、教職員9名、地域住民等0名 計28名
実施内容	被災者救助(救急救命)訓練、火災避難訓練、地震体験車「ごりよう君」、津波を想定した避難訓練と避難経路確認、ライフジャケット脱着訓練

## ねらい

- 1、災害についての知識を身につける
- 2、災害から自らの命を守るとともに、被災者を救助する行動力を養成する
- 3、災害から生き抜く力を身につける

## 主なプログラム

- 1、火災、津波に対して各状況を設定し、避難訓練・避難場所の確認を行う。また被災者の救助のための救急救命訓練を行う。
- 2、起震車による地震体験訓練  
地震体験車「ごりよう君」に乗って、3方向の揺れと震度7までを段階的に体験する。
- 3、ライフジャケット着脱訓練

## 概要

- 1、緊急時に人命救助にあたるための心構え、南海・東南海地震への備えと、ライフジャケットの正しい着用方法の体験から被災時にとるべき行動を確認した。
- 2、在校時に災害が起こった時の避難場所までの経路を確認するとともに、在宅時の避難場所や家族との連絡方法を確認した。

## 参加者感想文

- ・救急救命は速さが最も大切で、あわせて、的確な判断も必要だと感じた。
- ・避難経路を調べておこうと思った。
- ・災害時は想定にとられない臨機応変な対応をするべきだと思った。
- ・どこで災害に遭うか分からないので、家族との連絡方法を確認します。

## 成果と課題

### 【成果】

- ・例年、心肺蘇生法や起震車による地震体験をしているが、生徒は毎年少しずつ入れ替わるため、地震の恐ろしさやその後に来る津波に対する認識を高めるためにも、継続的に行う必要性を実感した。
- ・生徒は、災害発生時に自分の身を守ること、被災者を助けること、ボランティアとして人々をサポートすること等について、一つ一つ自分たちのとるべき行動や、担うべき役割を確認できたようである。また、家族との連絡方法や落ち合う場所を決めておくことの大切さも認識したようである。
- ・生徒は、巨大地震に伴う津波発生時に、ライフジャケットを着用することの大切さを理解し、実際に着用して試みることで緊急時の安全対策を実感できたようである。
- ・今年度はコロナ対策を万全にし、防災訓練をほぼ計画通りに実施できたことで、生徒への意識付けになった。

### 【課題】

- ・今年度もコロナ禍の影響で、アルファ米の炊き出し訓練は実施出来なかった。
- ・生徒は、訓練でも真面目に取り組んでいるが、目的の理解が不十分で、真剣みに欠ける部分があることも否めない。いかに自分のこととしてとらえ、より高い意識で訓練に臨ませるかが今後の課題である。

